

だきまして心より御礼申し上げます。

平成十六年から始まった新医師臨床研修制度も九年目の研修医を迎えることとなり、ほとんどの医学部生は卒業後の新研修医制度を前提に医学部に入学してきている状況となっています。熊大病院群の平成二十四年度の当院プログラムでは高いマッチング率を背景に一年次初期研修医五五名を迎え、二年生四六名と合わせて一〇一名の研修医が研鑽をつみました。一年目に必修科を中心に内科六ヶ月、救急三ヶ月、二年目に地域医療研修と十一ヶ月の選択診療科をローテートする基本的なプログラムに、研修協力病院の特徴を活かした七パターンの組み合わせプログラムと小児、産婦人科の特化コースを用意した九コースが用意されています。特に二十二年度から改定された二年次十一ヶ月の希望選択科の研修は、多くの診療科の協力により、他に比べても相当に自由度を高くしている点が特徴といえます。

二十四年度末で二年間の研修を修了した研修医に、改めて、自由選択期間についてアンケートを行ったところ、九〇%以上の研修医がこの改訂を支持する意見が得られました。当院の研修課程における一つの特徴としては三年目の進路へ向けての模索型の研修を行うケースが多く、後半になるに従って診療科の選択が変わってくる研修医が出てくることです。昔に比べれば実際に仕事として体験した上で進路が決定できるというメリットもありますが、逆に決めきれなくなった研修医からの相談が持ち込まれることもあります。

結果的に、今回無事終了した研修医の

八五%は熊大の診療科に入学し、一〇%は研修で回った病院に進んでいます。一部は出身地の他県等に就職していますが、多くの研修医はプログラムの研修機関で自分の進路を見出すことができたといえます。全員無事に研修修了できたことも含めて、学内、学外の先生方の指導の姿勢が結実した結果だと考えています。

今後とも総合臨床研修センターでは熊大病院群での臨床研修を通じて、医学・医療の発展に寄与し、地域医療に貢献できる、次世代の医師育成・医師確保に一役を担う所存です。これらの活動は関係各位のご理解とご支援があつてのことであり、なかでも財団法人肥後医育振興会の皆様の多大な御支援に改めて感謝申し上げます。今後ともよろしくお願ひします。

第十三回日本分子脳神経外科学会開催のご報告とお礼

熊本大学大学院生命科学研究部
脳神経外科学分野教授 倉津 純一

第十三回日本分子脳神経外科学会を、平成二十四年九月二十日、二十一日の二日間に行われ、熊本市国際交流会館において開催致しました。

本学会は、二十一世紀に入り、バイオテクノロジーやコンピュータテクノロジーの開発・進歩に伴い、脳神経外科領域においても分子生物学的知見や手法が病態の解明や新しい治療法の開発に不可欠になってきたことにより、分子生物学

的知識を基盤に置いた、新しい情報交換の場の設立が望まれ、平成十一年六月「日本分子脳神経外科研究会」として発足されました。その後、それまで十三回の開催実績をもった「脳と免疫」研究会と統合され、平成十三年「日本分子脳神経外科学会」となりました。それ以来「脳神経外科疾患（脳腫瘍、脳血管障害、脳・脊髄外傷、中枢神経の奇形、てんかん、パーキンソン氏病をはじめとする機能性脳神経疾患等）」について、分子生物学・細胞生物学の観点から診断・治療法の開発を推進することにより、脳神経外科診療の向上に資する」ことを目的として開催されています。

今回は留学生三名を含む全国から一四五名の参加があり、脳腫瘍、脳血管障害などの病態解析、診断、治療に関する研究五八題の発表がありました。

その中で「膠芽腫に対する新規薬物治療の可能性」、「病態解析への分子イメージングの挑戦」、「脳保護の新たな試み」の三セッションを特にキーノートセッションとして取り上げ、それぞれの分野のエキスパートにシヨートレクチャーをいただいた後で、研究結果を拝聴し、討論することでより深く理解ができるように企画しました。これらのセッションを含めて、いずれの講演においても活発な討論がなされ、当該分野の発展と学術交流に寄与できたものと確信しております。また本学会のランチオンセミナーは、熊本大学大学院生命科学研究部の富澤一仁先生（分子生理学分野）と尾池雄一先生（分子遺伝学分野）にお願ひし、本学での最先端の研究成果を国内に発信していただきました。

第六十五回九州歯科医学大会報告

熊本県歯科医師会 広報担当理事
加藤 久雄

さらに特別講演として、熊本大学文学部附属永青文庫研究センターの稲葉継陽先生に「日本史研究の最前線」として細川家史料を解説していただき、史料をもとにした日本の中世から近世にかけての政治、分化の変遷の研究成果をご教授いただきました。

最後に本学会の開催にあたり、多大なご支援を戴きました公益財団法人肥後医育振興会に心より感謝申し上げます。

平成二十四年十月十三日（土）第六十五回九州歯科医学大会が、市民会館崇城大学ホールにおいて開催されました。この大会は、九州八県の歯科医師会が毎年持ち回りで開催し、担当県がそれぞれの年のテーマを決め、それに沿った演者をお呼びして講演を行うものであります。九州各地の多数の先生方と歯科医療について語り合い、親睦を図るという目的で開催されます。二十四年度は、本県が担当し、九州各県より一〇〇名ほどの参加がありました。長谷宏一九州地区連合歯科医師会会長、大久保満男日本歯科医師会会長の代理で山科透副会長、蒲島郁夫熊本県知事の代理で小野泰輔副知事、幸山政史熊本市長が来賓として出席されそれぞれ祝辞を述べられました。

基調講演1では「歯の欠損から始まる